

さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～



NO. 8 令和4年3月17日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

心も体も大きくなりました！(花組)

心地よい春の暖かさに誘われて、朝から戸外で遊ぶ子どもたちが多くなりました。芯から冷えるような寒い朝はご機嫌ななめで遊び出すのにも時間がかかっていましたが、最近では自分でササッと支度を済ませて友達を誘ったり好きな遊びを楽しんだりしています。お弁当前には友達と一緒に机を運んだりやかんのお茶を運んだり先生のお手伝いや自分でできることを喜んで取り組んでいます。大きくなったことやもうすぐ風組になることが嬉しく、頑張ろうとする姿を見ると、本当に大きくなったなあとしみじみ思います。

子どもたちが好きな遊びの1つに“宝探し”があります。1月末からずっと続いている遊びです。ガムテープを巻きつけた新聞紙ボールを園庭のいろいろなところに隠して探し出します。始めは保育者と一緒に遊んでいましたが、繰り返し遊んでルールが分かると子どもたちだけでも遊べるようになっていました。始めのうちは当ててもらうことが嬉しく、分かりやすい場所に置いたり、自分から隠した場所に案内したりしていました。次第に、探すことや見つからないように隠すことが楽しくなってきました。探す子どもは、見えないように倉庫の裏に入って数を数えて「もういいよ。」の声が聞こえてくるまで待っています。隠す子どもは、ボールと同じ色のところ(緑のボールは葉っぱの間、銀のボールは石の間など)や丸太の隙間など大人でも見つからないような場所に隠します。ヒントを出すことも上手になり、「Aちゃん近い！あ～、離れちゃった。」などと友達同士で教え合う姿もありました。あまりに難しいので、見つからない日もあります。帰りの会で「銀と青のボールが見つからないんだ。」とBくんが話すと、「ぼくも探してあげようか？」「明日見つけるね！」と周りの子どもたちが答えてくれます。また、かけっこをしていたBくんとCくんがこんな話もしていました。「いっぱい走ったら疲れちゃったねー。そうだ、Bくんの好きな宝探ししようか？」「うん、いいね！」「宝の地図もつくりたいね。」と。友達のために一緒に探そうとしたり、友達はこの遊びが好きだったなと思い返したりと相手のことを考えようとする姿がいろいろなところで見られます。それぞれに友達のことを大事に思っていて、同じ花組の仲間になっているのだなと嬉しく思います。友達と一緒に笑ったり怒ったり泣いたり…と1年を通していろいろなことを経験しましたが、きっとその一つ一つが子どもたちの成長の糧になっていることと思います。大切な仲間と一緒に、これからももっと心も体も大きくなっていくことを楽しみにしています！1年間ありがとうございました。(高橋)



次は、星組になるんだ！(風組)

2月になり、星組さんになるための大事な行事の1つである“農場にジャガイモの種イモ植え”をしに行きました。当日は、ヤマミバスに目を輝かせ、少しドキドキ、ワクワクしながら農場に行きました。そして広い農場に着くと、「星組さんはいつもここに来てたのか～」とB君。ジャガイモの種イモを植え、野菜レンジャーさんに「またお世話に来てね。」と言われ、子どもたちは嬉しそうでした。「次農場に行くときは、みんなは星組さんだね。」と言うと、「楽しみ！」「早く星組さんになりた～い！」と楽しみにする子どもたちでした。

2月末、年長さんから飼育の引き継ぎもしてもらいました。お帰りの時間に、星組さんに教えてもらったことを紹介したり、「(包丁で野菜を)切るのが上手って言ってくれた。」など褒められたことを紹介する子どももいました。星組さんから「星組になったら、こめちゃんのお世話よろしくね。」と言われ、風組の子どもたちは、照れる子どももいれば星組さんの目を見て「はい。わかりました！」と頼もしい返事をする子どももいました。“星組になるんだ！”と少しずつ実感が湧いているのが伝わってきました。

3月は、お別れ遠足にも行きました。星組さんの後ろについて、春日山→SL→世界の森公園→亀山公園と行きました。10月の散歩では、行きも帰りも「もう疲れた。」と坂道を上る子どもたちに何度も「頑張れ！」と励ましていたなということを出しました。しかし、今回は「疲れた。」ではなく、「楽しいね。」「前は、この道葉っぱがいっぱいあったよね。」「真子先生、この階段でこけたよね。」なんて話も……。しっかり星組の後ろについて歩くだけでも頼もしく感じたのですが、心も体もたくましくなっている姿を見ることができ嬉しく思いました。

星組さんと一緒に過ごせる日にちをみんなで確認し、「何か風組で星組さんにできないかな？」と尋ねると「手紙書くのは？」「花組の時、写真たてあげたよ。」など考える子どもたち。保育者が「鉛筆立てを作って渡すのはどうかな？」と聞くと、張り切って準備を始めました。鉛筆立てをつくる行程は多く、“星組さんに渡したい。”という気持ちがあり、成長した風組だからこそ作り上げられるのだと思いました。「遊戯室もたくさん飾り付けしたい！」と花紙でお花を作ったり、折り紙で輪飾りやリボンを作ったりする子どもたち。お別れ会に向け着々と準備が進んでいきました。

憧れの年長さんの姿を日々見てきた風組さん。農場に行き、飼育の引き継ぎ、お別れ遠足、お別れ会と行事をやる中で、子どもたちは星組さんへの憧れだけでなく、感謝の気持ちをもちお別れ会を開くことができました。そして、「次は、僕たち私たちが星組になるんだ！」という気持ちが高まっていると思います。今までお世話してもらったことが多かった星組さんに喜んでもらえたということは、今後の子どもたちの自信につながっていき、素敵な星組さんになることでしょう。お別れ会を大成功させた風組さん、本当に素敵です！！立派な星組さんになあれ。(尾川)

園庭のチューリップが少しずつ背を伸ばし、子どもたちの進級や進学を祝うために花を咲かせる準備を始めているようです。子どもたちもお姉さんやお兄さんになる喜びを感じているようです。このさくらんぼを通じて、子どもたちがたくさん遊んで育っていく様子を皆様にお伝えできていたら幸いです。1年間、ありがとうございました。



やさしく・かしこく・たくましい星組さん☆(星組)

卒業式の練習や行事などで忙しい毎日をご過ごす中、子どもたちは寸暇を惜しんで、砂場や大型ブロック、ごっこ遊びや鬼遊びなど、これまで楽しんできたいろいろな遊びを、友達と一緒に思う存分楽しむ姿がありました。卒業式の練習の時間になると、「もっと遊びたかった～」と言いながらもすぐに集まって真剣モードで練習に臨み、入退場や証書授与の動きもすぐに覚えた子どもたちの姿には、大きな成長を感じます。

2月に、風組さんにうさぎの飼育の引き継ぎをしました。集まりの時間で教えることを確認すると、「風組さんは包丁を初めて使うかもしれないから、風組さんの手をもってあげる。」「包丁で指を切らないように、猫の手を教える。」などと風組さんのことを思った発言が多くありました。引き継ぎのときには、「上手だね。」「初めてなのにこんなにできてすごい！」と言ったり、拍手やいいねポーズをしたりする子どももいて、自分なりの表現で風組さんを褒めたいという気持ちが表れていました。そして、風組さんの頑張る姿を見て、これからうさぎのお世話を安心して任せられると感じたようです。お別れ遠足では、前日の集まりの時間に「明日の遠足では、何をして遊びたい？」と保育者が尋ねると、「鬼ごっこ」「かくれんぼ」などと好きな遊びが出てきた後すぐに、「(星組は足が速いから)少し弱気で走らんと。」や「花組さんが鬼になったら、(一人では大変だから)私も一緒に鬼になってあげる。」などと、年下のクラスの友達のことを考えた意見が出てきました。当日の遊びの時間になると、年下の友達を誘って、遊び方がわかるようにルールを説明したり、進んで鬼役をしたりして鬼ごっこを一緒に楽しんでいました。飼育の引き継ぎやお別れ遠足などで、年長としての自覚をもち、責任をもって教えたり優しくしたりする姿にたくましさを感じました。

卒業に向けては、何度かみんなで相談する機会を設け、来年度の星組さんを迎える壁面を作っていました。「土を作りたい。その中に幼虫とミミズを入れたい。」というAくんの意見に、多くの子どもが「いいね。」と反応した後に、「そういうのじゃない。」と悲しそうに言うBちゃん。すると、「Bちゃんはお花でいっぱいにしたいんだよね。」「お花畑にしたいんだね。」「じゃあ、これはどう？土の上に草があって、その上をお花にするのはどう？」「それいいね！」などと、Bちゃんの気持ちに寄り添いながらも、Aくんが言った意見と合わせて、よりよい方向に考えようとする姿に優しさやかしこさを感じました。遊びの中でも困っている友達のしようとしていることや思いを考え、励ましたり助けたりしながら、力を合わせてやり遂げようとする姿があります。

給食体験や小学生との交流などを通して、小学生になることへの期待感が日に日に高まっているようです。幼稚園で元気いっぱい遊び、たくさん考え、友達と心を通わせながら難しいことも乗り越えていったことを心の栄養にして、これからもいろいろなことに挑戦してほしいです。やさしさいっぱい、かしこさいっぱい、たくましい星組さんは、立派な小学生になるでしょうね。これからもずっと応援しています。(松村佳)